

# 子どもから 子どもへ



ガザの「ナワール子どもセンター」では子どもたちによる人形劇の真最中。

手を洗わなかったためにお腹が痛くなってしまう男の子のお話です。ガザ地区では3年前に新型インフルエンザが流行するなど感染症が問題で、冬に向けて予防教育が欠かせません。人形劇を使って「子どもから子どもへ」楽しみながら予防教育を実施しています。

子どもたちが大好きなパソコン。最近はブログ作りも盛んです。そのテーマは、停電、ろうそくの火事で死んだ子どものこと、ナワールセンター、環境汚染、ガザの遺跡、イスラエルの獄中にある人のハンガーストライキなど。ガザの子どもたちは社会的な問題にも関心を持っています。多彩なプログラムを地域の子どもや女性に提供し続けるナワール子どもセンターの秋の活動をご報告します。

## ナワール子どもセンターは……

2006年に当会と地元の女性の団体によって設立しました。今も当会が運営を支えています。

センターがあるガザ地区南部ハンユニスの郊外は、ガザの中でも失業率が高く貧しい地域です。教育水準は低く、保守的で女性の地位も低いため、早婚や一夫多妻などの問題もあります。

ガザは人口の半分が15歳以下で、子どもの数に対して学校数が少なく小学校は午前と午後の二部制になっているため、それに合わせて子どもセンターも二部制で、子どもたちはそれぞれ授業がない時間帯にセンターにきます。毎日8時と12時の開館時間に必ず来る子どもたちも多く、今年センターに登録している小学生は約200人です。

センターでは、演劇、伝統舞踊、工作、パソコン、補習クラスなど多様なプログラムを提供するほか、1月は外遊び、4月はお祭り、7月は遠足と夏休みのイベント、8月は断食月の行事など毎月のテーマイベントを開催しています。付近には子どものための施設はなく、ナワールは子ども図書館、コンピューター室、公園などの役割も果たし、保護者や地域に信頼されています。



## 人形劇

**バイ菌**：(歌う)俺様はバイ菌、ちっちゃいぞ。お、あの男の子はだらしがないな。こんな子を探してたんだ。

だーれだ、道で遊んでいるのは？

(**サバーハ先生**：「みんなで一緒にバイ菌の歌を歌おう。」子どもたち繰り返す)

**ア リ**：ねえみんな、太陽はもう上った？ねえみんな、僕の髪の毛どうしちゃったかな。くしを使うの面倒だなあ。

いいや、道で遊ぼう。砂遊びにしよう。ああ、本当はボールがほしいんだけどなあ。

**バイ菌**：俺様はここだぞ、砂の中だ。よし、お前のそばにいくぞ。手で砂遊びしているから口に入っちゃえ。

**お母さん**：アリ。こっちに来て朝ごはんを食べなさい。さあ手を洗って。

**ア リ**：どうして？砂はついてないよ。面倒だからこのまま食べちゃおう。ああ、おいしいパンだなあ。

**バイ菌**：アハハハハ。お前のことが気に入ったぞ。

**ア リ**：あれれ。どうしたんだろう。おなかがとっても痛いよう、どうしてだろう。

**バイ菌**：手を洗わなかったからさ。さあ口に入ったぞ。お腹に入ったぞ。

**ア リ**：どうやって僕のお腹に入ったの!?

**バイ菌**：お前が砂遊びをしたあと、手をきれいにしなかったからだ。俺様はどこにでもいるんだぞ。

**ア リ**：わあ、おなかが痛い！死んじゃうよう！

(**サバーハ先生**：「みんな、おなかが痛いマネして」。子どもたちまねをする)

**お母さん**：こんにちは、みんな。アリの物語から何がわかった？

**子ども**：砂で遊んだ子はご飯の前に手を洗わなくっちゃだめだよ。

**子どもたち**：髪も洗わないと。お母さんを悲しませちゃだめだ。がっかりさせちゃだめだ。汚い砂で遊んじゃだめだ。

**ア リ**：お母さんはご飯の前に手を洗いなさいって言ってたんだよ。でも僕は砂を払っただけで、ご飯を食べたんだ。みんな！僕みたいにしちゃだめだよ。ご飯の前に手を洗わなくっちゃ。トイレの後にも洗わなくっちゃだめだよ。頭も洗わなくっちゃだめだよ。汚い砂で遊んじゃだめだよ。



## 母親の参加

ナワールでは毎月3～4回母親向けプログラムも実施していて、様々なテーマの中で特に人気なのは「食事と栄養」「健康問題」「心理サポート」などです。物資不足の時には、廃油を利用したせっけん作りや生活の工夫について学んだり、女性向けのレクリエーションやリラクゼーションをテーマにストレス解消法を学んだり、女性たちが交流する大切な居場所になっています。今年は乳がんについての会を4回開催し、毎回70人近い参加がありました。

毎日通ってくる6年生の女の子バスマの家を訪問しました。母のハナディさんは15歳で結婚し、30代で7人の娘がいます。

## 伝統文化祭



ナワール子どもセンターの母体であるCFTAは今年創立20周年を迎えて、10月に伝統文化祭を開催しました。CFTAはナワールの他に2つの子どもセンターを開設し、さらに女性向けの保健センターと法律相談も開設しています。文化祭では、子どもたちによる踊りや歌、劇などの発表があり、またお母さんたちが作った手芸作品の即売会もありました。



### ハナディさん

「バスマは毎朝必ず妹たちと一緒にナワールの図書室に行きます。本を借りてきて小さな妹に読んであげたりしてます。家のすぐ近くにセンターがあるのは本当に助かるわ。学校から帰るとすぐにセンターに飛んでいくんですよ。文化祭の舞台で娘が踊るなんて信じられなかったわ。

うちは部屋が一つしかなく、夫は障害があって職がなく家にいるので、お客さんと呼ぶこともできません。センターは他のお母さんと仲良くなれる場所です。母親の会にできるだけ参加するようにしています。」

### バスマ

「学校は子どもが多くて先生はいつも忙しそうだし、怖い。ナワールの先生はゆっくり宿題を教えてくれるよ。」

## 地域の課題に取り組む



### センター責任者の ナジュワ先生

「この地域は支援をとっても必要としています。遊びや創造的な活動が必要です。また、勉強の面で遅れが出ている子どもが小学校を無事に卒業できるような支援、貧しく保守的な地域の中で子どもをたくさん抱えるお母さんたちへの支援です。

子どもとお母さんたちを支えてくださっている日本の皆様のご支援に、心から感謝申し上げます。」